

# TIGER Tateishi

The Retrospective

2館同時開催

うらわ美術館 + 埼玉県立近代美術館



大・タイガー立石展 世界を描きつくせ!

2021 11/16 tue >>> 2022 1/16 sun

Urawa Art Museum  
The Museum of Modern Art, Saitama

Press Release

# 立石 展

世界を  
描きつくせ!

A 《Milano Torino Superway》1974年 うらわ美術館、埼玉県立近代美術館蔵



## 【企画概要】

絵画、漫画、イラストレーション、絵本……。タイガー立石（本名・立石紘一／1941～98年）は、様々なジャンルで活躍したアーティストです。縦横無尽にジャンルをまたぐそのスタイルは、世代を越えて今日の若いアーティストにも刺激を与え続けています。

立石は太平洋戦争の始まった1941年に、筑豊の炭鉱の街・伊田町（現・福岡県田川市）で生まれました。漫画や映画を愛する少年として育ち、1961年に大学進学のために上京。1963年に前衛芸術の牙城であった読売アンデパンダン展で、玩具や流木などを大画面に貼り付けた作品を発表し、頭角を現します。その後、時代や社会のアイコンを大胆に引用した絵画を制作し、和製ポップ・アートの先駆けとして高く評価されます。1965年からは漫画も描きはじめ、「タイガー立石」の筆名を用いて漫画の連載を手がけます。台詞のないナンセンス漫画は国境を越え、海外の雑誌でも紹介されました。

日本での活躍が期待されていたさなか、立石は突如イタリアに移住。1969年から13年間にわたりミラノを中心に活動します。イタリアでは漫画表現を応用したコマ割り絵画を精力的に描きます。そのSF的な世界や独特の画風はイタリアの美術界だけでなく、建築・デザインの世界からも注目されます。当時、ラジカルな建築・デザイン運動を先導していたエットレ・ソットサスやアレサンドロ・メンディーニらと協働し、卓越したイラストレーションの仕事を残しました。

1982年に帰国すると、自作の漫画を編纂した『虎の巻』を刊行する一方、絵本の制作にも着手し、視覚的な遊びを盛り込んだ絵本を多数手がけ、好評を博します。絵画では、大衆的なイメージや、明治・大正・昭和といった歴史を振り返るモチーフをとりあげ、パロディにみちた大作、そして、軸物や巻物など伝統的な絵画形式にも挑戦し、多彩な才能を発揮しています。

立石の作品では、芸術とサブカルチャー、西洋／東洋、過去／現在／未来といった区別は無効になり、世界のヒエラルキーが徹底的に解体されています。目にしたありとあらゆる世界を、作者の画力によって奇想天外な時空間の中に繰り返し引用、再編し、多層的なものへと拡張していくのが、まさに「立石ワールド」なのです。

1998年に立石は56歳でこの世を去りましたが、2021年は生誕80年を迎える記念の年となります。この節目に、うらわ美術館と埼玉県立近代美術館は本展を共同で開催し、タイガー立石という特異なアーティストを大規模に振り返ります。

## ◆タイガー立石（立石紘一／立石大河亞）略歴

- 1941年 12月20日福岡県田川市に生まれる（本名：立石紘一）。
- 1963年 武蔵野美術短期大学芸術デザイン科卒業。第15回読売アンデパンダン展に出品。
- 1964年 中村宏とともに「観光芸術研究所」設立。
- 1968年 タイガー立石に改名。この頃から漫画家として活動。
- 1969年 イタリア・ミラノへ渡る。漫画のコマ割を応用した絵画を制作。
- 1971年 オリベッティ社のエットレ・ソットサス事務所で、イラストレーションの仕事始める。
- 1982年 帰国、漫画作品集の刊行や絵本の出版、個展の開催など精力的に活動。
- 1990年 立石大河亞に改名。
- 1994年 初の回顧展が郷里の田川市美術館（福岡）で開催。
- 1998年 4月17日死去（享年56歳）。

# 本展 描きつくせ!

うらわ美術館と  
埼玉県立近代美術館  
がタッグを組んで  
同時開催!

本展は13歳の頃描いた漫画作品から遺作までを紹介。500点を超える作品、原画、資料が一堂に会す、過去最大規模の個展となります。千葉市美術館を皮切りに3会場を巡回してきた本展もいよいよ最終会場となります。フィナーレを飾る埼玉会場では、漫画や絵本の原画、関連資料の追加展示を行い、2つの美術館で同時開催します。

富士山、月、虎……。タイガー立石は、同じモチーフを繰り返し描きました。例えば、絵画に描かれた虎は、漫画にも登場し、更に絵本では主人公として活躍します。モチーフを何度も改変、再編しながら、新たな表現や物語を紡ぎだしていくのが、タイガー立石の魅力のひとつです。

## モチーフの反復



見どころ

過去最大規模の個展。

ジャンルを超える、  
国境を超える、  
世代を超える

タイガー立石は、絵画、漫画、イラストレーション、絵本など幅広いジャンルで活躍し、膨大な量の作品を手がけ、各ジャンルで大きな成果を残しました。また、絵画、漫画、イラストレーションなどは国境を超え国外でもたびたび紹介され、内外の若い世代に現在も刺激を与えています。この膨大な仕事量と活動の広がりを、2会場では是非ご体感ください。

奇想天外な

タイガー立石の作風の大きな特徴は、独特の時空間の表現です。立石の作品は、内と外が、遠いものと近いものが、宇宙と日常が、過去・現在・未来が、反転したり、融合したりしながら、見る者を多次的な世界へと誘います。絵画、漫画、絵本にあらわれる奇想天外な時空間を、是非、ご堪能ください。

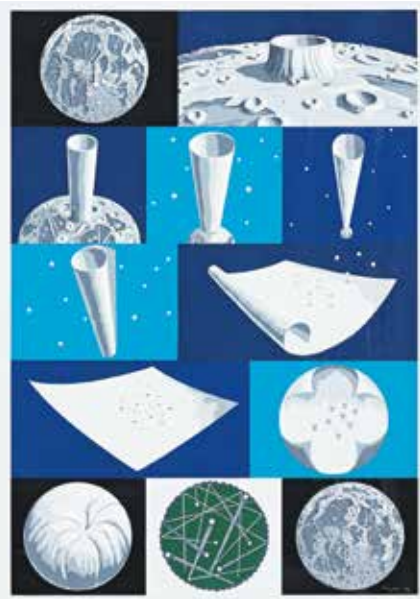
世界を

大々

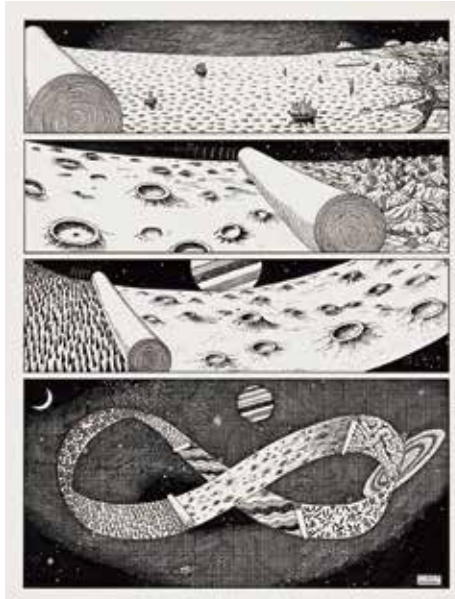


# 【うらわ美術館】漫画、絵本にフォーカス！

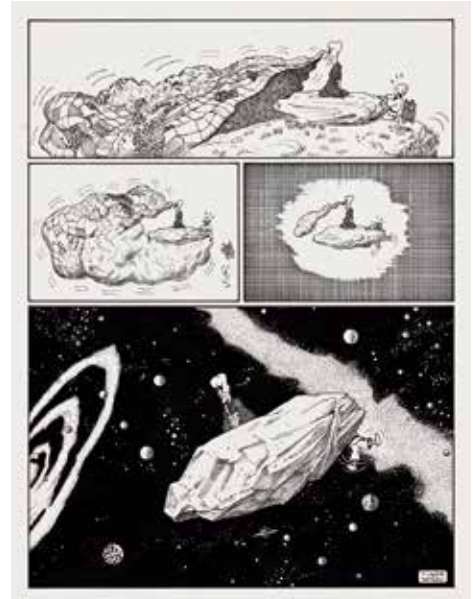
「本をめぐるアート」をコレクションのテーマとするうらわ美術館では、漫画と絵本という視点から、様々な領域を自在に行き来した表現者・タイガー立石を捉えます。



B. 《The Moon Grows to the Moon》  
1981年 うらわ美術館、埼玉県立近代美術館蔵



C. 「帯世界」原画 1982年 courtesy of ANOMALY



D. 「観光術」原画 1982年 courtesy of ANOMALY



E. 「とらのゆめ」原画 1984年 個人蔵



F. 「とらのゆめ」原画 1984年 個人蔵



G. 「Tiger Tateishi」p.15 原画  
1968年 courtesy of ANOMALY



H. 《ネオン絵画 富士山》原案1964 / 没後制作 2009年  
個人蔵 (青森県立美術館寄託)



I. 「Tiger Tateishi」  
1968年 courtesy of ANOMALY



J. 「顔の美術館」原画 1994年 個人蔵

K. 《水の巻》(部分) 1992年 豊田市美術館蔵



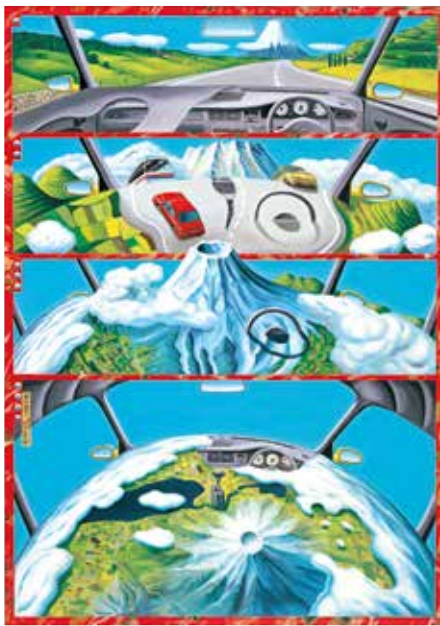


# 【埼玉県立近代美術館】画業の全体像を回顧

タイガー立石の画業を全体的に回顧します。また、これまであまり紹介されることのなかったイタリア時代についても、資料を交えて詳しく振り返ります。



L.《約束の時間》1970年 豊田市美術館蔵



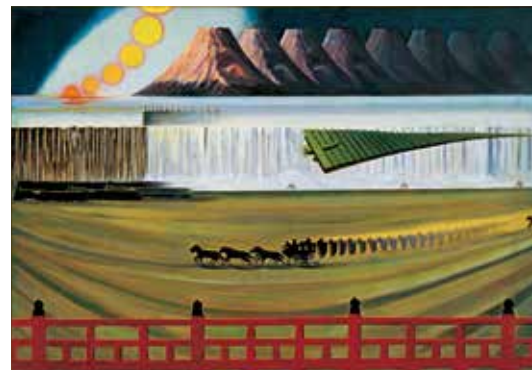
M.《車内富士》1991年 高松市美術館蔵



N.《Cubic Worlds》  
1973年 うらわ美術館、埼玉県立近代美術館蔵



O.《立石紘一のような》1964年 高松市美術館蔵



P.《汝、多くの他者たち》1964年 千葉市美術館蔵



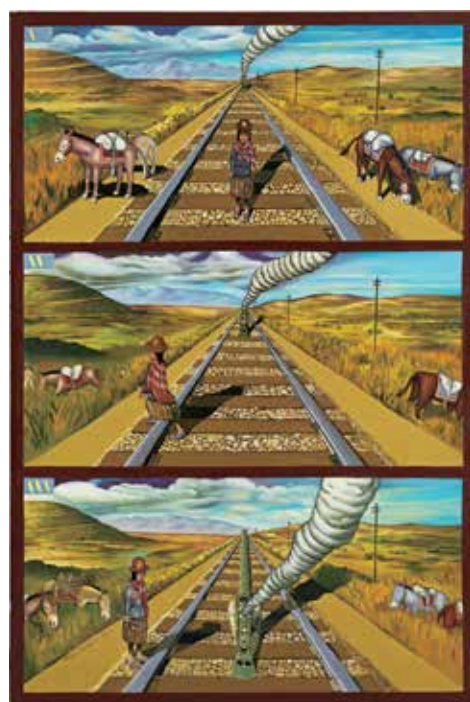
Q.《タイガー・ゲルニカ》1970年 courtesy of ANOMALY



R.《百虎奇行》1989年 田川市美術館蔵



S.《大正伍萬浪漫》1990年 田川市美術館蔵



T.《アンデスの汽車》1997-98年  
東京ステーションギャラリー蔵



[開催概要]

展覧会名：**大・タイガー立石展 世界を描きつくせ！ TIGER Tateishi: The Retrospective**

会 期：**2021年11月16日[火]～2022年1月16日[日]**

休 館 日：月曜日（2022年1月10日は開館）、

うらわ美術館12月27日～2022年1月4日、11日／埼玉県立近代美術館12月27日～2022年1月6日

会 場：うらわ美術館、埼玉県立近代美術館 **2館同時開催**

出品点数：うらわ美術館 | 絵画、版画、ドローイング等：約75点／漫画および絵本原画、資料等：約350点  
埼玉県立近代美術館 | 絵画、版画、ドローイング等：約100点／資料：約25点

主 催：うらわ美術館、埼玉県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

協 賛：ライオン、DNP 大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網

協 力：ANOMALY

助 成（埼玉県立近代美術館のみ）：芸術文化振興基金 

広 報 協 力（埼玉県立近代美術館のみ）：JR 東日本大宮支社、FMNACK5



うらわ美術館  
URAWA ART MUSEUM

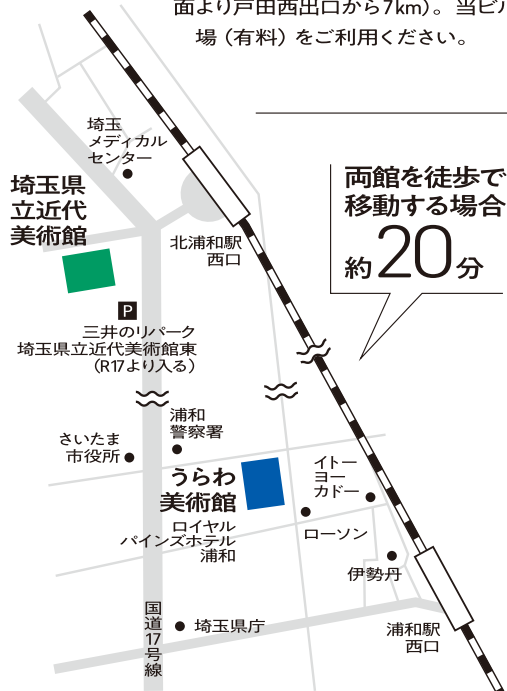
〒330-0062 さいたま市浦和区仲町 2-5-1 浦和センチュリーシティ 3F  
Tel.048-827-3215 Fax.048-834-4327  
<https://www.city.saitama.jp/urawa-art-museum/>

開館時間：午前10時～午後5時（金・土曜日は午後8時）  
（展示室への入場は閉館の30分前まで）

観 覧 料：一般620(490)円、大高生410(320)円、  
中学生以下無料

\*（ ）内は20名以上の団体料金。\*障害者手帳をお持ちの方および付き添いの方1名は半額。\*リピーター割引：観覧済の有料観覧券のご提示により、団体料金でご覧いただけます（観覧日から1年以内、1名様、1回限り有効）。

交通案内：電車利用=JR京浜東北線、高崎線、宇都宮線、湘南新宿ライン、上野東京ラインで浦和駅下車。西口から徒歩7分。車利用=東北自動車道（浦和出口から9km）、首都高5号池袋線・埼玉大宮線（浦和南出口から4km）、外環自動車道（三郷方面より外環浦和出口から5km、大泉方面より戸田西出口から7km）。当ビル地下の公営駐車場（有料）をご利用ください。



埼玉県  
立近代  
美術館

The Museum of Modern Art, Saitama

〒330-0061 さいたま市浦和区常盤 9-30-1  
Tel.048-824-0111 Fax.048-824-0119  
E-mail: p240111@pref.saitama.lg.jp <https://pref.spec.ed.jp/momas/>

開館時間：午前10時～午後5時30分  
（展示室への入場は午後5時まで）

観 覧 料：一般1100円(880円)、大高生880円(710円)

\*（ ）内は20名以上の団体料金。\*中学生以下と障害者手帳をご提示の方（付き添い1名を含む）は無料です。  
\*併せてMOMASコレクション（1階展示室）もご覧いただけます。

交通案内：JR京浜東北線北浦和駅西口より徒歩3分（北浦和公園内）。JR東京駅、新宿駅から北浦和駅までそれぞれ約35分。当館に専用駐車場はありませんが、提携駐車場「三井のリパーク埼玉県立近代美術館東」では駐車料金の割引があります（企画展観覧で300円引き、MOMASコレクション観覧で100円引き）。団体バスは事前にご相談ください。お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたします。ただし、台数に限りがありますので事前にご連絡をお願いします。

関連事業：うらわ美術館・埼玉県立近代美術館の各ホームページでお知らせします。

**とら割** うらわ美術館  
または埼玉県立近代美術館で本展の「一般」もしくは「大高生」の観覧券を購入すると、2会場目の観覧料が200円割引になります。2会場目の観覧券購入の際に、1会場目で配布される「とら割券」(1枚につき、1名様のみ、1回限り有効)をご提出ください。その他の割引との併用はできません。



〈広報用画像提供〉

広報用画像として作品図版A～Tをご用意しています。本紙の必要事項をご確認の上、メールまたはFAX（埼玉県立近代美術館はメールのみ）にてご連絡ください。

※確認事項 ① 作品図版は本展覧会紹介に限りご使用いただけます。② 作品図版を使用する際は必ずキャプション（作品名、制作年、所蔵先）を表記してください。③ 取材や会場撮影の際は必ず事前にご連絡ください。④ 確認のため校正原稿をお送りください。⑤ 掲載日、放送日、掲出日が決まりましたら事前にお知らせください。⑥ 掲載後には恐れ入りますが、掲載誌（紙）、データ等をご惠贈ください。

- A.《Milano Torino Superway》1974年 うらわ美術館、埼玉県立近代美術館蔵 ①⑤
- B.《The Moon Grows to the Moon》1981年 うらわ美術館、埼玉県立近代美術館蔵 ①⑤
- C.「帯世界」原画 1982年 courtesy of ANOMALY ①
- D.「観光術」原画 1982年 courtesy of ANOMALY ①
- E.『とらのゆめ』原画 1984年 個人蔵 ①
- F.『とらのゆめ』原画 1984年 個人蔵 ①
- G.『Tiger Tateishi』p.15原画 1968年 courtesy of ANOMALY ①
- H.《ネオン絵画 富士山》原案1964／没後制作2009年 個人蔵（青森県立美術館寄託）①
- I.『Tiger Tateishi』1968年 courtesy of ANOMALY ①
- J.『顔の美術館』原画 1994年 個人蔵 ①
- K.《水の巻》（部分）1992年 豊田市美術館蔵 ①⑤
- L.《約束の時間》1970年 豊田市美術館蔵 ⑤
- M.《車内富士》1991年 高松市美術館蔵 ⑤
- N.《Cubic Worlds》1973年 うらわ美術館、埼玉県立近代美術館蔵 ①⑤
- O.《立石紘一のような》1964年 高松市美術館蔵 ⑤
- P.《汝、多くの他者たち》1964年 千葉市美術館蔵 ⑤
- Q.《タイガー・ゲルニカ》1970年 courtesy of ANOMALY ⑤
- R.《百虎奇行》1989年 田川市美術館蔵 ⑤
- S.《大正伍萬浪漫》1990年 田川市美術館蔵 ⑤
- T.《アンデスの汽車》1997-98年 東京ステーションギャラリー蔵 ⑤

①…うらわ美術館展示作品  
⑤…埼玉県立近代美術館展示作品

希望作品図版

-----  
媒体名

-----  
媒体種別（雑誌、web等）

-----  
貴社名

-----  
ご担当者名

-----  
ご連絡先

Tel :

Fax :

e-mail :

-----  
掲載、放送、掲出日

-----  
\*読者プレゼント用招待券が必要な方

必要枚数 :

枚

-----  
送付先ご住所

〒

〈お問い合わせ〉

## うらわ美術館

〒330-0062 さいたま市浦和区仲町2-5-1 浦和センチュリーシティ 3F  
Tel.048-827-3215 Fax.048-834-4327  
<https://www.city.saitama.jp/urawa-art-museum/>

## 埼玉県立近代美術館

〒330-0061 さいたま市浦和区常盤9-30-1  
Tel.048-824-0111（代表）／048-824-0110（学芸直通） Fax.048-824-0118  
E-mail : kouhou@aria.ocn.ne.jp  
展覧会担当：平野、菊地 広報・画像に関するお問い合わせ：真中

※新型コロナウイルスの感染状況等により会期や内容が変更になる場合があります。ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。なお、最新の情報は、各美術館公式ホームページでご確認下さい。※各美術館のホームページにプレスリリースのデータやお問い合わせフォーム等を掲載しています。ぜひご利用ください。